

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

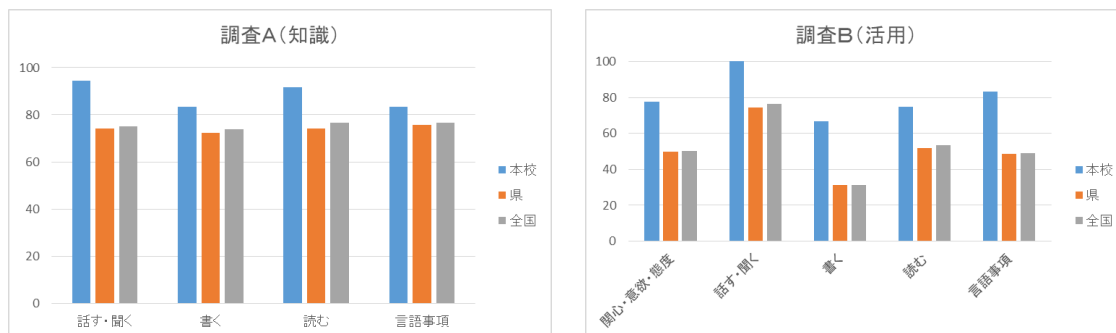
全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



すべての領域において全国平均を上回っており、基本的な学習内容は定着していると思われる。無回答者があつた設問はなく、時間的にも余裕をもって回答することができたと思われる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・正答率は全国平均をA調査で19.2ポイント、B調査で23.4ポイント上回った。また、B調査の正答率は、100%であつた。基本的な学習内容は定着していると言える。

書く

・A調査では、全国平均を9.4ポイントとやや上回っている。また、B調査では35.4ポイントと大きく上回っており、書く力は身に付いていると言える。今後も国語の授業の中だけではなく、朝の会やブロック集会等でのスピーチ原稿を書くなど、相手意識をもって分かりやすく書く取り組みを継続していきたい。

読む

・正答率は全国平均をA調査では15ポイント、B調査では21.5ポイント上回った。ただし、「文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する」問題で、わずかながら全国平均を下回った。物語文を読む際は登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることを意識しながら読むように指導する必要がある。

言語事項

・A調査では6.8ポイント、B調査では34.1ポイント全国平均を上回った。言語事項において漢字の読み書きや、文法等の学習内容が定着していると考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 登校後は読書に取り組むようにしています。日頃から本に親しむとともに、落ち着いて学習に臨めるようにします。
- ブロック集会や朝の会などで、自分の考えを発表し意見交流する場を多く設定しています。相手の話の主旨を捉え、自分の意見を表現できるコミュニケーション力の習得をめざします。
- 国語辞典、漢和辞典を教室前廊下に常時設置しています。国語の授業中は、机の上に置いて分からない言葉があつたらすぐに調べるように習慣付け、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けるようにしています。

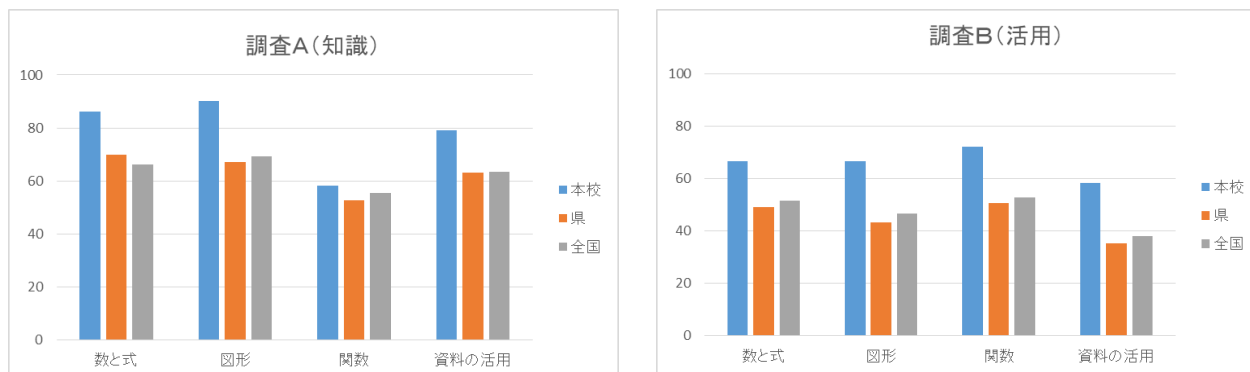
【ご家庭では】

- 本や新聞に親しむ機会を増やしましょう。語彙力を高め、知識の幅を広げることができます。また、文章を読んで要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 試験では、限られた時間内で正確に読み取り、条件に従って的確に答えることが必要です。学習プリントや問題集などを活用して、時間を意識して解く練習をすることも必要です。

2 数学

(1) 結果

全国正答率との比較



すべての領域において全国平均を上回っている。問題形式ごとの正答率を見てみると、選択肢から選ぶ問題は76.9%に対して、理由や方法を記述する問題は84.3%だった。全体的に無回答率は低く、記述式の問題にも何とか答えようとする姿勢が見られる。

(2) 成果と課題

数と式

・A調査、B調査とも計算問題は全国平均を大きく上回った。特にA調査では全国平均を15ポイント上回っている。基礎的な技能の定着をめざし、放課後学習会でプリント学習に取り組んでいることも効果があったのではないかと考える。

図形

・A調査では21.2ポイント、B調査では20ポイントと大きく全国平均を上回った。空間図形の問題は正答率が100%で理解ができていると見ることができる。

関数

・A調査、B調査ともに全国平均を上回っているが、問題による正答率の差が大きかった。関数の用語の意味や式の意味を正しく捉えていない傾向が見られた。説明する場面を増やし、用語の意味や式の理解の定着をめざす。

資料の活用

・A調査、B調査とも全国平均を上回っている。正答率100%の設問も多かった。ただし、1枚の硬貨を多数回投げた時の表が出る相対度数の変化について正しい記述を選ぶ問題では、全国平均をやや下回った。確率の意味を理解し、イメージして資料を整理する力が必要である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 放課後学習会等の時間を利用して補充的な学習を行い、学力の定着を図ります。
- 授業では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりする言語活動を多く取り入れ、数学的な見方・考え方を育成し、思考力・活用力及び表現力を高めます。
- 定着していないところの復習を丁寧に取り扱い、単元ごとの確実な習熟をめざします。
- 家庭学習の課題チェック、ノートチェック、プリント、ドリルなど日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、学習習慣の確立と補充指導に努めます。

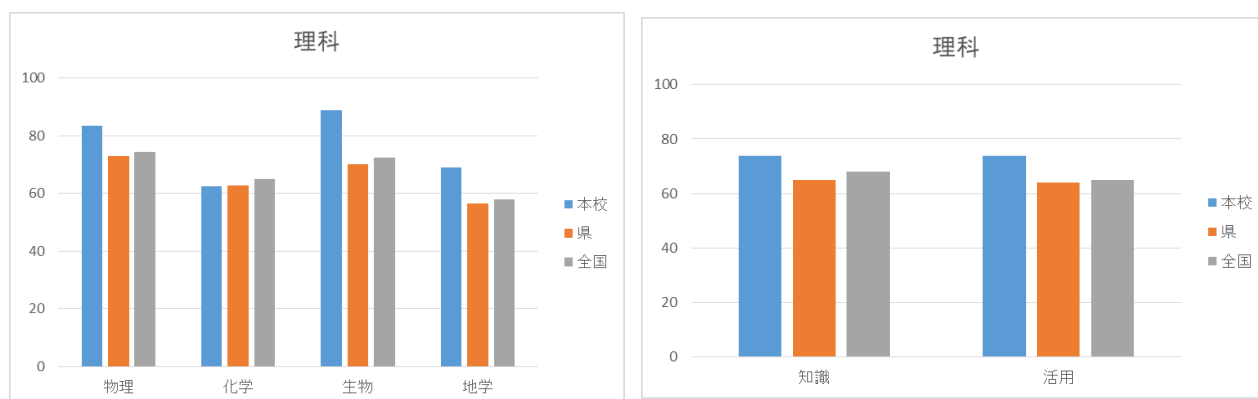
【ご家庭では】

- 数学は積み上げの教科です。毎日学習を続けていくと力がつきます。授業があった日に復習をすると、一度忘れても思い出すのが容易になります。学習習慣のリズムができると課題に取り組むのも楽になってきます。最後まであきらめずに解くことが大切です。解けた喜びを味わうと数学が楽しくなってきます。励ましの言葉をお願いします。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



ほとんどの領域で全国平均を上回っているが、第1分野 化学的領域においてわずかに全国平均を下回った。また、知識に関する問題、活用に関する問題のどちらにおいても全国平均を上回った。

(2) 成果と課題

第1分野(物理的領域・化学的領域)

・ガスバーナーを使った燃焼に関する問題では、炎の色と金網につくススの量を調べる実験を計画する際に条件を指摘できない誤答が多くみられた。実験を計画する際に、調べる要因を明らかにし、その要因を調べるために変えなければならない条件は何か、そろえなければならない条件は何かを整理しながら考え、実験を計画することが必要である。

第2分野(生物的領域・地学的領域)

・生物的領域では16.4ポイント、地学的領域では11.2ポイント、全国平均を上回った。特に、アサリが出した砂の質量は何に関係しているのか指摘する問題は正答率100%であった。
・地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する問題では、初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用することができていた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験や観察を充実させるために理科室の環境整備を推進します。
- 理科の学習で問題解決を通して明らかになったことを日常生活に当てはめて考えるようにします。学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

【ご家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんと一緒に考えたり、調べたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	91.9
毎日、同じくらいの時刻に起きている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	90.3
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。(どちらかといえばしているも含む)	93.0	74.2
学校の規則を守っている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	95.1
平日読書を30分以上している。	16.7	8.7
平日読書は全くしない～30分未満。	83.3	69.0
週末にテレビを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている。	83.3	80.1
今住んでいる地域の行事に参加している。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	45.6

起床・就寝・朝食については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。給食も好き嫌がなく、毎日完食できている生徒が多い。学校でも具合が悪くなり、保健室へ行くこともほとんどない。家庭の協力によるものである。

読書については、平日読書時間が30分未満の生徒が約80%である。その中でも10分未満の生徒が半数で、ほとんど読書の習慣が身につけていない生徒もいる。地域行事には、全生徒が積極的に参加している。

《家庭学習の様子》

調査項目	本校 %	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	83.4	36.4
平日1～2時間勉強している。	16.7	34.2
平日の勉強時間が1時間以下である。	0.0	29.4
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	91.6
家で、授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	83.4	55.2
予習・復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使っている(どちらかといえばしているも含む)	100.0	71.3

学習時間は、全生徒が平日1時間以上学習しており、全国平均を大きく上回っている。しかし、内訳を見ると、3時間以上している生徒が約17%いる一方で、1時間～2時間と答えた生徒が約17%で、個人差が見られる。

学習内容については、宿題はきちんとしているが、予習・復習については個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われる。家庭学習の質・量をともに上げていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習の習慣が定着するよう、毎日「自主学习(自学)」を宿題として出しています。また、帰りの会で、その日の家庭学習計画(教科や内容、時間等)を立てさせています。充実した内容の自学ノートを提出する生徒が増えてきています。自学ノートは各教科担当からコメントを入れるようにしています。アドバイスを基に次の目標をもって自学に取り組んでもらいたいと思います。
- 思考力・判断力・表現力を向上させるために、朝の会、ブロック集会、委員会活動等の様々な場面でスピーチ活動を行っています。今後も継続して行っていききたいと思います。

【ご家庭では】

- 「学習の手引き」を配布しています。各教科の授業への取り組み方や家庭学習のポイント等を掲載しています。参考にされて、毎日家庭学習に取り組むお子さんへのアドバイスをお願いします。
- 規則正しい生活習慣や家族との関わり、地域の方との交流を通して、子ども達の学習に向かう基盤となる人間性が育まれます。1つ成長したら、みんなで喜び、励ましたり褒めたりしてあげてください。